

# 長畝ふるさと通信

【2020年12月号】

## ■ 新年明けましておめでとうございます

令和2年はコロナに世界中が翻弄させられた年となりました。世界全体では感染者8500万人、死者180万人(1月5日現在)となり、今もなお感染拡大しています。マスクを着けて外出することが日常となり、アカン警察に怯えながら自粛生活をするようになりました。「いつになったら元の生活に戻れるんだろう・・・」と世界中が嘆いています。ワクチン接種が始まって感染拡大が終息するのは早くて来年秋以降だとも言われ、言いようのない閉塞感が漂っています。それまでの間、感染拡大が断続的に起こり、失業者が増えるでしょう。仮に感染拡大が終息しても、「日本は安全ですから外国人のみなさん、どうぞいらっしやい」となるのでしょうか・・・オリンピックはどうなるか・・・不安と心配は尽きることはありません。



## ■ アフターコロナをどう考えるか

これからは全ての人の働き方や暮らし方の変化が求められる中で、農業はどう変わればいいのかでしょう。外食需要が減少して食品ロスが減るでしょう。コロナで輸出制限措置をとる国が増えれば、国産農産物の生産力拡大を国策として進めなければなりません。国産農産物の価値観が大きく転換するのではと期待しています。付加価値の高いものが求められる時代が来れば、農業の関心度が高まり、後継者も増えるのではないのでしょうか。



令和2年は正に「我慢の年」でした。我慢の先に笑顔が見えることを信じて、今年も真っすぐにお米づくりに励んでいきたいと思います。

**おかわりは自由です。**

余談ですが年末プレゼントに入っていたカレンダーは佐渡一頑固な酒蔵「金鶴・加藤酒造」の社長さんから頂いたものです。ボクも愛飲している金鶴を是非一度、呑んでください。